日本のプロサッカーコーチにおけるメンタルヘルスの探索的研究：現状とシーズン内変化

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-11-07
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 澁川, 賢一
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003746

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 125 号

日本のプロサッカーコーチにおけるメンタルヘルスの探索的研究：現状とシーズン内変化

（An exploratory study of mental health in Japanese professional soccer coaches: Current conditions and in-season changes）

澁川　賢一（しぶかわ　けんいち）

博士（スポーツ健康科学）

論文内容の要旨

本研究は、日本のプロサッカーコーチを対象にメンタルヘルスの状態と影響するストレッサーについて横断的且つ縦断的に調査し、その実態と特徴を明らかすることを目的とした。

調査対象者は日本プロサッカーリーグに所属する 16 クラブのプロサッカーコーチで、2022 年シーズン中のシーズン序盤、中盤、終盤の 3 つの時期に、精神的健康状態を測定する GHQ-12、ポジティブなウェルビーイングの状態を測定する WEMWBS、ストレッサーの自己認識評価に関する質問紙を用い、郵送法にて調査を実施した。調査対象者のデータは属性毎に整理し、GHQ-12 と WEMWBS はそれぞれのカットオフ値から低・高の 2 群に、ストレッサーの自己認識評価は項目毎に低・中・高の 3 群に分類した。横断的分析は、序盤の調査に回答した 175 名のデータに基づき、縦断的分析には、3 つの時期を通して全調査に回答の得られた 79 名のデータに基づき解析した。統計手法には Fisher の正確確率検定とボンフェローニ法にて補正された p 値による群間比較を用いて、有意水準 5%として解析を行った。

横断的分析の結果、メンタルヘルス不調の傾向のある GHQ-12 高群が 28.6%、ポジティブなウェルビーイングの状態が低い WEMWBS 低群が 31.4%を占め、属性による有意差は認められなかった。ストレッサーの自己認識に関しては、「自分のパフォーマンス」と「指導者間の対人関係」の高認識群は GHQ-12 高群と、WEMWBS 低群に有意に多かった。縦断的分析の結果、シーズンの時期によるストレッサーの違いに違いがみられ、シーズン終盤には「選手のパフォーマンス」、「自分のパフォーマンス」、「所属クラブからの要求」の高認識群に GHQ-12 高群の割合が高く、「保護者からの要求」、「指導者間の対人関係」を強く認識している群に、GHQ-12 高群と WEMWBS 低群の両方の割合が有意に多かった。個人内変化として、GHQ-12 では 46.8%、WEMWBS では 59.5%のコーチはシーズン中に 1 度はメンタルヘルス不調が疑われる値を示した。

本研究により、日本のプロサッカーコーチには、メンタルヘルス不調が疑われるコーチがシーズン中の時期に関わらず一定数存在する実情が明らかとなり、シーズン内でメンタルヘルスの変化が見られるコーチも存在していた。また、コーチのメンタルヘルスの問題の背景にある特徴的なストレッサーが浮かび上がった。これらの結果から、メンタルヘルスのスクリーニングをシーズン内に複数回実施することや、特にシーズン終盤に心理的支援を充実させることの重要性が示唆された。